

としまち研掲示板

△▼△としまち研 各部会の次回開催予定△▼△

共同建替え部会	10月25日(火)
コーポラティブ住宅部会	10月21日(金)
団地・マンション再生部会	10月3日(月)
福祉部会	10月17日(月)
総務部会	
広報部会	

としまち研会員の方であれば誰でも部会に参加できますので、是非ご参加ください。

☆進行中のプロジェクトニュース☆

・こはす

(コーポラティブハウス神田東松下町パート3)

坂の上テラスと同じく、自主管理をすることが決まりました。

・奥澤コーポラティブハウス

8月のお盆明けから、奥澤コーポラティブハウスの建設工事が始まりました。

昨年10月30日に建設組合が設立してから、10ヶ月弱での着工となります。

これからは、共用部の更なる検討や防災・防犯、また完成後のマンション管理に向けた検討等、住まいの安心と安全に重点を置いた取り組みが始まります。

・『神田を歩こう会』開催予定

今年は神田祭が予定されていたため(東日本大震災の影響で中止)、秋に開催です。ご案内までもう少しお待ちください。

・12月の一木会

12月の一木会(12月12日)は毎年恒例の落語を予定しています。改めてご案内いたしますが、皆さんお誘いあわせの上、ご参加ください。



奥澤：現場の様子

としまち研会員募集

としまち研では、活動に参加して下さる方(正会員)や活動を応援して下さる方(賛助会員)を募集しています。

詳しくはとしまち研のホームページをご覧ください。

まちづくりのご相談は事務局へ

○借入金があるが何か建替えの方法はあるか。  
○お隣りも建替えを考えているようだが共同建替えは自分たちでは調整できない。  
というような難しいご相談も検討します。  
お気軽にご相談ください。

編集後記

8月末の日曜日、坂の上テラスの居住者宅にて女子会が開催されました。持ち寄りの会だったのですが、「居酒屋に行くよりおいしいものが食べられるし飲めるよね!」ということで、どうやら継続開催の様子。メーリングリストを利用した女子限定の交流、皆さんコーポラティブライフ満喫という感じでした。

9月8~11日には、九段二丁目町会のお祭りにデビューしました。初めての参加にもかかわらず、木頭をやらせてもらえる町会のウェルカム体制に感動し、また来年が楽しみにになりました。(事務局 飛澤)

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町33 COMS HOUSE 2階  
tel 03-5207-6277 fax 03-5294-7326  
E-mail info@tmk-web.com ホームページ http://www.tmk-web.com/  
皆さまからのご意見、ご感想をお待ちしております。

としまち研現在の会員数  
正会員56人 賛助会員22人  
編集発行人 比護彰彦  
事務局担当 飛澤玲奈



としまち研会報 第53号

おいらのまち

2011.9

発行 NPO都市住宅とまちづくり研究会 理事会

南医療生協とゴジカラ村見学、感動の旅  
~もうひとつの住まい方推進協議会(AHLA)主催~

台風接近の9月2日(金)から2日間、AHLA主催の名古屋市、東海市及び長久手町にある南医療生協とゴジカラ村の見学の旅に参加しました。

まずお邪魔したのは、小さな診療所にはじまり今年50周年を迎える南医療生協の総合病院 南生協病院。組合員の意見(千人会議など)を取りまとめ設計された地域に開かれた病院として昨年新築。通勤時間帯には、駅に向かう人々が病院の中を抜けていく、病院内にフィットネスクラブ・パン屋さん・食堂がある、健診ドックセンターは病院棟からは独立しているなど、新しい価値観の病院です。南医療生協は、病院や診療所のほか、多数の介護系の施設も運営し、基本理念「みんなちがってみんないい、ひとりひとりのいのち輝くまちづくり」を実践しています。その一部をたっぴりと見学させていただきました。

頭が一杯になった頃、宿泊先のゴジカラ村の古民家“ほとぎの家”に移動。南医療生協の成瀬専務も駆けつけてくださり、見学会参加者の皆さんとにぎやかに夕食交流会。頃合いを見計らって、としまち研の本間さんが“としまち研恒例の1分間スピーチ”を提案。帰る必要がないので、じっくりと発言、質疑などが行われ、大変有意義な時間となりました(1分間スピーチの効用再確認)。

翌朝、朝食後にゴジカラ村の開設者である吉田一平氏(8月に長久手町長に当選)が忙しい中少しだけ顔を出してくださいましたが、何とも魅力的な人でした。その後に見学したゴジカラ村の各施設も、前日の南医療生協の各施設も外部の人々の見学を「入居者にとっては刺激になり、気持ち動くのは大切なこと」と嫌な顔ひとつしないで喜んで迎えてくれました。

ゴジカラ村の各施設の運営に必要な仕事(デイサービスの送迎、庭木の剪定、草取り etc.)は“きねづかシェアリング”という定年退職者などのボランティア組織が昔取った杵柄(若い頃につけた技能)を使って楽しく取り組んでいます。

団塊の世代が前期高齢者となる来年から本格的な高齢社会を迎えるにあたって、私たちも“みんなが役割を持って、長生きを楽しみにできる場所”(ゴジカラ村の基本コンセプト)づくりへの取り組みをしようと元気をもらった感動の旅でした。(としまち研理事長 杉山昇)



ゴジカラ村の古民家“ほとぎの家”  
ここで交流会、宿泊

おいらのひとりごと

『おいらのひとりごと』はとしまち研会員による、リレー形式のエッセイです。

『「こころづかい」と「思いやり」』 としまち研 佐久間弘

3月11日の東日本大震災から、半年が過ぎました。当時、震災直後のテレビのCMは、広告の自粛からか、ACジャパンの同じCMが繰り返し放映され、さすがに嫌気がさした覚えがあります。何本か放映されていたCMの中で、なかなかいい詩だなと思ったのが、「こころ」はだれにも見えないけれど、「こころづかい」は見える。「思い」は見えないけれど、「思いやり」は誰にでも見える。

特に詩が好きで訳ではないのですが、気に入ったので調べてみると、宮澤章二という詩人の作品で、詩集「行為の意味」の中の一部でした。CMでは、アレンジされて使われていました。こころも思いも確かに見えませんが、「こころづかい」と「思いやり」という人に対する積極的な行為となった時には見ることができるといえることを言っています。

今だからこそ、大切にしたいと思います、「こころづかい」と「思いやり」。

※次号の「ひとりごと」は藤倉勇さんです。お楽しみに。

一木会ご報告（原則、毎月第一木曜日に COMS HOUSE で行う勉強会・交流会で

★第192回一木会（2011. 8. 4）

「東日本大震災と超高層マンションの防災対策」と題して、(株)地域計画研究所の若山氏に、仙台の超高層マンションで3.11に住民はどう動いたかのヒアリング調査内容と震災時活動マニュアルの必要性についてお話がありました。また、既にマニュアルのあるリガーレ日本橋人形町管理組合理事長の鈴木氏からは、3.11の住民の動き、中央区などの帰宅困難者の様子などの報告がありました。「活動マニュアルはみんなで作らないと意味がない」というお話はとても印象的でした。



★第193回一木会（2011. 9. 1）

IFJC エコライフラボ事業統括責任者のO.バルテンシュタイン氏に、「エネルギー自給自足建築の安心」というテーマで福島にある実験住宅の話や各地でのエネルギー設計の新築・リフォームの話をしていただきました。便利なライフラインに依存して、疑問なくエネルギーを受け取る日本の建築も、3.11の東日本大震災を経て、しっかりと考え直す材料を提供していただいたように思います。



今後の一木会予定

- ★10月（10月13日）【第194回一木会】★ ※第2木曜日の開催です。 (有)秋元建築研究所 代表の秋元孝夫さん／養殖ジャーナリストの秋元理さん 『2030年の三陸』～朝日新聞『ニッポン前へ委員会』提案論文優秀賞～
★11月（11月10日）【第195回一木会】★ ※第2木曜日の開催です。 (株)第一生命経済研究所の宮木由貴子さん 『震災時のコーポラティブハウスのコミュニティ機能に関する調査研究報告』

宮城県名取市関上小学校へお祭り用はっぴを贈りました

（仮称）コーポラティブハウス神田東松下町パート3に参加されている組合員からのご相談で、『ふんばろう東日本支援プロジェクト』という支援サイトを通じ、宮城県名取市の関上（ゆりあげ）小学校のPTAの方たちが子供用のお祭り用はっぴを必要としていることを知り、皆さんからの救援募金を利用して、関上小学校へ子供用はっぴを50枚と小さな手ぬぐいを250枚贈ったところ、お礼の手紙をいただきましたのでご紹介します（内容は一部省略しています）。



はっぴを着て集合写真

この度は、みなさま方からのあたたかいお心遣いありがとうございました。当日は天気にも恵まれ仮設住宅を回った際にはお年寄りの方やみなさんに拍手と笑顔で迎えていただきました。当初は50～60人の子供の参加を見ておりましたが、仙台七夕と重なり、35名ほどの参加となりました。



お祭りの様子

私たちのまち、関上は、名取市の沿岸にあり、人口7,000人程のまちでした。今回の津波でまちは壊滅的なダメージをうけ、約1,000の方が亡くなりました。小学生は数名が下校途中でしたが、殆どが小学校に残っていたため、小学校で一夜を過ごしました。その小学校の校舎から流れ行く人や助けを求める人の声を聞き、心に大きな傷を抱えています。それでも学校では友達と一緒にいることがうれしく、とても楽しく過ごしております。又、中学生は普段ならば学校

に居て、全員無事なはずでした…。津波当日は卒業式でした。午後から親子で卒業を祝う謝恩会をしていた人達、家に居た人達…。中学生は14名が亡くなり保護者は23名が亡くなりました。でも…子ども達は一歩、一歩と前へ進んでおります。私達も泣いてばかりではいけないと、背中を押されました。

本当にみなさんからのお心遣いありがとうございました。

みなさまから頂きましたはっぴは今回のお祭りだけではなく、小学校の運動会や関上のまちが復興したとき、各地区の子供会にも差し上げたいと思っています。（関上中学校PTA会長 菊地訓子）

震災時のコーポラティブハウスのコミュニティ機能に関する調査研究

東日本大震災から約3か月経過した6月より、主にとしまち研がかかわったコーポラティブハウスを中心に、株式会社第一生命経済研究所の宮木由貴子氏と共同で、「震災時のコーポラティブハウスのコミュニティ機能に関する調査研究」というテーマで、震災時に居住者がどのような行動をとったか、震災後の管理組合での対応はどうだったかなど、震災当日に在宅していた人を主に、ヒアリング調査を行いました。

建物や人身の被害があったところはありませんでしたが、やはり建物の上階に住む方からは、電化製品・家具の破損の話が聞かれました。家具等の耐震対策は必要かと思えます。また、住民同士で各戸を直接訪問、またはメーリングリストを利用して安否確認をした話、ご近所さんと備蓄品や食事のおすそ分けをした話など、コーポラティブハウスならではの居住者間の自然な交流についても話を聞くことができました。

報告書は、としまち研HPほか、第一生命経済研究所のHPにもアップされる予定です。現在建設中の2棟のコーポラティブハウスでは、東日本大震災以降、防災面についても検討を始めています。

なお、報告書には今後、東日本大震災よりも大きな災害が起きた時のために、どのような対策をとるべきか、課題についてもまとめられていますので、是非ご一読いただき、管理組合で災害時の対応を今一度検討してみはいかがでしょうか。（としまち研事務局 飛澤玲奈）

ラグーン千歳烏山 BBQ パーティ

以前、としまち研がマンション建替えをお手伝いしたラグーン千歳烏山より、夏季 BBQ パーティのご案内をいただき、建替えに携わったメンバーでお邪魔してきました。

ラグーン千歳烏山は、構造計算書の偽造が原因となって建替えを余儀なくされた、いわゆる「耐震偽装マンション」でした。平成17年11月の発覚から3年強をかけて、住民の方々と一緒に、再建プランをまとめ、資金調達に苦しみ、竣工、再入居にこぎつけた、忘れられない建物です。

BBQ パーティは、昨年度に引き続き2回目だそうです。大人・子ども合わせて40名程が集まり、広いエントランスホールと駐車場を使って行われました。男性陣が腕をふるった焼きそばや焼き肉、料理が得意な奥様によるお惣菜の数々。途中、かき氷器が登場すると、それまで、思い思いに走りまわっていた子どもたちがさっと列をつくり、その様子があまりに可愛くて微笑んでしまいました。再建マンションを拠点に新しい日常が積み重ねられつつあることを感じます。

懐かしい顔や少し大きくなった子どもたちを拝見しながら、近況をお聞きしたり、他愛もない話をしたりして過ごした、嬉しい一日となりました。（としまち研理事 宮本愛）



かき氷はじめるよ～！

CH 神田東松下町パート3 上棟お祝い会&建物名称決定

工事が始まって約1年、「こはす」がめでたく上棟を迎え、9月10日（土）に上棟お祝い会が盛大に開かれました。それに先立って行われた建物名称決定投票の結果、いままで「（仮称）コーポラティブハウス神田東松下町パート3」と呼ばれていた建物は、「こはす」という名を冠することに。パーティには実際にその手で「こはす」をつくってくださっている施工の方々をはじめ、設計者、としまち研スタッフ、入居者家族などが集まり、交流を楽しみました。



こはすの上棟を祝して！

大いに盛り上がった会は3月の地震による資材不足や猛暑など困難の中、最小限の遅れで上棟までこぎ着けた設計、施工の皆さんに感謝しつつ、来年2月に予定される引き渡しまで引き続き頑張ってくださいという思いを伝え、お開きとなりました。

上棟したとはいえ、今はまだ防護シートにくるまれている「こはす」ですが、焼き煉瓦をあしらった外観がお目見えすれば、町内にまた新鮮な雰囲気を与えてくれることでしょう。その日をぜひ楽しみに！

（コーポラティブハウス神田東松下町パート3建設組合 宮崎励）